

2-B-03

B型肝炎ワクチンローレスポonderへの4回以降の接種と抗体陽転について

菊池 均¹、宮津 光伸¹、永田 俊人²、後藤 泰浩³、山本 悦子⁴

¹名鉄病院 予防接種センター、²名鉄病院 小児科、³総合上飯田第一病院 小児科、⁴山本ウイメンズクリニック

【序文】 B型肝炎ワクチンはトラベラーズワクチンとしても重要であり、長期赴任者を中心に接種を行っている。B型肝炎ワクチンは低年齢では免疫原性が高いが加齢とともに免疫原性が低下する。4回接種後以降の抗体陽転率の検討を行ったので報告する。

【方法】 B型肝炎ワクチン3回目以降の接種の際に抗体価測定の有用性を説明し、同意の得られた希望者に対しHBs抗体を測定し、抗体価低値の場合には追加接種を行った。ワクチンは化血研製のビームゲン(R)又はMSD製のヘプタボックス(R)を使用した。検査は院内でCLIA法で行った。検査はabbottのキットで測定し、10mIU/ml以下の値も評価に用いた。2007年12月から2014年5月に採血を行った当科受診者3,423人のデータを元に後ろ向きに解析を行った。4回目接種以降のB型肝炎ワクチン接種前後で抗体を測定した例を抽出し、抗体陽転率を求めた。

【結果】 4回目の接種による陽転率は38% (18/47)、5回目では36% (12/33)、6回目では43% (6/14)であった。6回接種後の抗体価が陰性だった例は3例存在した。1例は6回接種後の抗体価が4.9mIU/mlだったため7回目を接種して終了した。その後の抗体は測定しなかったが陽転した可能性が高いと考えられた。1例は7回目接種で陽転した。1例は9回目接種で陽転した。4回目以降の接種後抗体価は順に(0.4, 0.0, 1.2, 1.0, 2.1, 12.3)であった。

【考察】 4回目以降の接種での抗体陽転率は36~43%であった。接種に伴う抗体価の推移は、0.0に近い数字が反復され、上昇傾向がみられるとその後の接種で陽転する傾向が見られた。10mIU/ml未満の数値も評価に有用であった。4回目以降の接種間隔は3か月~1年程度の反復となったが、1回接種するごとに約40%の抗体陽転が見られた。6回接種後に陰性だった3例については3クルールの3回で抗体陽転した。少なからぬ数が3クルールで陽転すると推測された。環境感染学会のB型肝炎ガイドラインでは2クルールで10mIU/ml未満の場合にはそれ以上接種を行っても効果がないので接種を終了することが勧告されているが、これはコストパフォーマンスを重視した判断と推察された。今回の検討で、7回目以降の接種に対しても接種に対して一定の効果が得られることが確認された。個人防衛の観点からは3クルール以降も接種する価値があると考えられた。